

Q. ふだんは活発なクラスですが、外国語活動になるとゲームなどの活動に熱心に参加する児童が少なくなってしまうようです。どうしたらよいでしょうか。

A **まず、次のことについて振り返ってみてください。**

① ゲームの内容は児童の学びのレベルに適したものでしたか？

英語での表現とはいえ、内容が学びのレベルに合わないものは、児童の興味・関心をひきつけられません。高学年になるほど、ゲームの内容が幼すぎると興味がわかず、積極的な参加は期待できないでしょう。

② 児童がゲームの「ねらい」や「やりかた」についてしっかり理解していましたか？

外国語活動で配慮すべきことは、児童が「間違ったらいやだ」という気持ちから、英語で表現することに消極的にならないようにすることです。英語を用いたゲームでは、そのゲームのねらいをきちんと伝え、やりかたについて十分理解させた上で行うことが大切です。

③ ゲームを行う前の練習はきちんとできましたか？

児童一人一人がゲームの「ねらい」や「やりかた」についてしっかり理解したかどうかを確認するためにも、ゲームを行う前の練習は欠かせません。

④ ペアやグループをつくるにあたり、能力やまとめ役となれる児童の配置などに配慮できましたか？

ゲームをするうえで、児童のコミュニケーションも大切です。グループの中に、ゲームを楽しむことができる児童がいれば、その児童が他のメンバーに説明したり、英語が苦手な児童を助けたりして活発な活動につながることも期待できます。

このようなことについて振り返り、改善できるところは改善して再度チャレンジしてみましょう。

アドバイス

ゲームは児童の学習意欲を高めるだけでなく、英語の発音・語彙・表現に慣れ親しむ練習の場です。ゲームを行うねらいがはっきりしていないと、単なる競争に終始してしまい、意味のない活動になってしまいます。競争意識が強くなると、勝敗に夢中になって日本語がつい口から出てきてしまい、英語に慣れ親しむ絶好のチャンスが無駄になってしまいます。ゲームを行うときは、必要な文脈で、“Excuse me.” “Thank you.” などの表現をしっかり使わせることが大切です。また、既習の英語表現“Are you ready?” “Hurry up!” “I won!” を使いながら先生も一緒に、みんなでゲーム活動を楽しみましょう。

Q. 自分の英語力に自信がなく、授業を進める際に戸惑ったり、子どもたちにうまく内容を伝えられません。どうしたらよいのでしょうか？

A 「外国語活動の目的は何か」という原点に立って、発想を転換し、児童と一緒に学びましょう。

小学校での外国語活動の目的は、英語によるコミュニケーションの素地をつくることにあります。大切なのは英語に慣れ親しむことであり、英語嫌いをつukらないことです。「英語は難しい、苦手だ」とか、「英語の専門家だから英語が話せる」という決めつけはやめて、「児童とのコミュニケーションを英語というツールで行う」と考えましょう。

(留意点)

1 「自分が分からないことは児童もわからない」

先生が分からないことは児童もわからないはずで、子どもたちの視点に立って、「ここでつまづかないようにしてあげよう」と、自身の状況を指導に役立てましょう。

先生が全てお手本を示さなければいけないということはありません。児童と一緒に先生も一緒になって英語でコミュニケーションを練習すればいいのです。

2 学級担任とALTの役割

児童とのコミュニケーションの主体は学級担任です。担任の先生が身振り手振りを交えて一生懸命にALTとコミュニケーションを図る姿が、子どもたちにとって一番のプラスです。「人と人とが仲良くなるために、どのような姿勢が大事なのか」を直接見せることが、「コミュニケーションモデル」としての役割を果たします。

3 自信を持って指導に当たるために

授業の前に、頭の中で簡単なシュミレーションを行いましょう。どんなフレーズを指示するのかなど、発問計画を作り、子どもたちがどんな反応をするだろうかなど、イメージしてみるのもよいでしょう。

ALTを交えての授業の場合には、事前に打ち合わせをしておく、自信を持って授業に臨めます。授業中困った時には、絵やジェスチャーを使うとよいです。

Q. ゲームを取り入れると、「外国語活動」ではなくて、レクになってしまわないかと心配です。より効果があがるようにするため、ゲームを進める上での留意点を教えてください。

A 外国語活動では、英語に慣れ親しみ、コミュニケーションの素地をつくるのが大切です。「ボディー・ランゲージ」といいますが、身振り手振り・ジェスチャーを交えたり、また、絵を使ったりしながら児童が楽しく英語に触れる環境づくりが欠かせません。このため、ゲームを取り入れるのは効果があるのです。

(ゲームの効果)

- ①自然とアイコンタクトが生まれる。
- ②大きな声で発言できるようになる。
- ③身振り手振り・ジェスチャーが実際の会話に生きてくる。
- ④「伝え合う」という状況をつくりやすい。
- ⑤「繰り返し(反復)」の場面をつくりやすい。
- ⑥普段口数の少ない子、友達に偏りのある子も巻き込んで育てることで、学級経営にもよい影響がある。

(留意点)

- ①ゲームの目的などを十分に伝える。(場面設定、楽しくコミュニケーション、失敗は恥ずかしくない…)
- ②全員が参加できるもので、興味・関心を高めるものを選ぶ。
- ③ゲームの前に十分練習する。「チャンツ」や歌などを取り入れて練習するのもよい。
- ④ゲームの目的が果たせたかどうか、評価を行う。

アドバイス

「チャンツ(chants)」って何？

一定のリズムに合わせて、韻を踏み、言葉を言っていくことです。

リズムに乗って発音することで英語特有のリズムやアクセント(強勢)、イントネーション(抑揚)をつかむことが目的です。手拍子をしたり、体を動かしながら声を出したり、児童が無理なく英語を口ずさむことができるので、とても優れた指導方法だといえます。

また、歌と違ってメロディーはないため、リズムや個々の音を意識して練習することができ、英語特有の「単語と単語の音の結合」や「実際にはほとんど発音されない音があること」などもわかるようになります。

チャンツで練習することで、対話のときにも自信を持って発音できるようになります。

Q. クラス全員が楽しめるゲームやアクティビティ（活動）にどんなものがありますか。

A. ゲームには「聞くこと」を中心としたものと「話すこと」を中心としたものがあります。

「聞くこと」を中心とするのか、「話すこと」を中心とするのか、そのときの授業展開に合ったゲームを選択しましょう。ゲームのねらいがはっきりしていないと、単なる競争に終始してしまって「外国語活動」として意味のないものになってしまいます。

★「聞くこと」を中心としたゲーム

- ・ フルーツバスケット
- ・ カルタ取り
- ・ ハエたたきゲーム
- ・ サイモンセズ
- ・ ビンゴゲーム
- ・ スリーヒントゲーム

★「話すこと」を中心としたゲーム

- ・ ジャンケン陣取りゲーム
- ・ ナンバーコールゲーム
- ・ Don't say 21
- ・ 伝言ゲーム

以上のゲームに場面（買い物・色・花・食べ物など）を加えるとさらに充実したものになります。

アドバイス

上記のゲームの効果的な利用・具体的な活動例は、千葉県総合教育センターが23年3月に発行した「中学校外国語科との円滑な連携を図る小学校外国語活動」のP16・17に詳しく解説されています。

<http://www.ice.or.jp/~i-kaihatu/data/gaikokugo-guidebook.pdf>

Q. 外国語活動を行う時、効果的な絵カードはどのように手に入れたらよいでしょうか。

A. インターネットのWebページを利用してみましょう。

インターネットで「絵カード 小学校英語活動」を検索すると、フリーライセンス（著作権が第三者の自由な再利用を許諾したもの）の絵カードをダウンロードすることができます。これを印刷する際に、厚手の紙でカラー印刷すれば手軽に絵カードを作成できます。フラッシュカード（フラッシュのように目の前で瞬間的にカードを速読して見せていくこと）も同様に作成できます。作成したカードはラミネート加工しておくことで、破れずに長く使うことができます。カードの角はヤスリでまとめて擦るなどして安全面にも配慮してください。

また、掲示用資料については、拡大プリンターがあれば、パソコンで作成した資料を拡大して掲示することが可能です。英語ノートなどをスキャナーで読み込んで、拡大印刷して必要なところを補足していけば時間をかけずに掲示資料を作ることができます。著作権に関しては、多くの場合、授業の資料として使う場合に問題はありませんが、作成や取り扱いには十分にご注意ください。

アドバイス

せっかく苦労して作った教材ですから、長く使うために保管方法にも気を使いましょう。絵カードは、「のりもの」「くだもの」「スポーツ」等の名札を付けたケースに入れて棚に分類しておきましょう。掲示資料は裏打ちをして補強し、使用後は掲示内容を表示して保管すると使いやすくなります。

Q：AL Tの先生との授業中の関わり方がよく分かりません。どのようにしたらよいのでしょうか。

(AL Tの先生の雇用形態がT Tという形態が可能な場合のアドバイスとなります。)

A：学級担任とAL Tの先生の役割分担を明確にしましょう。

まず、前提として学級担任がT 1であり、AL TがT 2であるということを認識し、役割分担を確立することが大切です。英語が不得意とお考えの先生は、ついAL Tの先生にすべてを任せてしまいがちです。しかし、日頃から子どもたちと接し、子どもたちの性格、学習進捗や内容、生活環境などをよく理解している学級担任が授業の中心となり、主体性を発揮して授業をすることが大切です。その最大の理由は子どもたちにとってそのことが大きな安心感や開放感につながるからです。

アドバイス

学級担任の役割を確立しましょう。

①学級担任T 1は授業の進行役になりましょう。

授業の進行はT 1が指示を出し、授業の中身をAL TやJ T Eに補助してもらったり、また活動内容によってはまかせることもよいでしょう。指示を出すときには必ず教室の正面に立って行き、授業を積極的に運営している姿をみせるようにしましょう。

②特に授業の始まりと終わりはいつもT 1が指示をしましょう。

第1声をT 1が明るく積極的に取り組む姿が、良いモデルとなります。

③子どもたちと一緒に活動しましょう。

一緒に活動することで、子どもたちが楽しめているか、理解しているかなどの様子を把握します。もし難しい時には、AL Tにやさしく言い直してもらったり、ジェスチャーや絵を利用したり、モデルを見せたりします。その際、AL Tへの指示する英語が分からないときは、日本語でも、身振り手振りでもよいので、迷わず指示を出しましょう。

④タイムキーパーになりましょう。

AL Tの活動が長引きそうな時など、「あと何分だよ。」とAL Tや子どもたちに声をかけるようにして、主導権を握っていきましょう。

⑤子どもの代役を演じましょう。

T 1は、本時のポイントとなる部分や子どもたちが理解しにくそうな部分などをわざと強調したり、AL Tにわざと質問をしたりすることで、子どもたちに活動を理解しやすくしてあげましょう。

⑥ほめましょう。

最後に教室の正面に立ち、本時の活動についてT 1、T 2それぞれからの評価をしましょう。ほめることを中心に評価をおこなうことが、次時からの子どものやる気とT 1、T 2への信頼につながっていくことでしょう。

Q：AL Tの先生との打合せがうまくできません。どのようにしたらよいのでしょうか。

(AL Tの先生の雇用形態がTTという形態が可能な場合のアドバイスとなります。)

A：打合せの事前準備をしましょう。

日々の忙しさから、打合せの時間がなかなかとれないかもしれませんが、打合せの流れをつくり、軌道にのせていくことで打合せがより充実したものになり、さらには楽しい授業の時間につながっていくものと思います。

アドバイス

スムーズな流れをつくりましょう。

①意図的に打合せの時間を作りましょう。

AL Tの先生が来校する日の放課後に次時の打合せの時間とするなど、週の時程の中で打合せの時間を決めておくとうよいでしょう。

②授業で行いたい活動内容を決めておきましょう。

年間計画等にそって、このような題材を使用して行いたい、このような活動内容を行いたいとAL Tの先生に相談できるようにしておきましょう。

③いつも同じ書式の指導案で打合せをしましょう。

打合せの際に、指導案はいつも同じ書式のものを使用し、あらかじめ授業の流れをおおまかに作成してから打ち合わせに臨むことで、AL Tの先生と学年の先生方がポイントやアイデアを共有することができます。出張などで不在であっても、打合せを代わりに行ってもらうことができます。

④その時間のポイントに重点を置いて打合せをしましょう。

授業の中に、毎時間必ず行う決まった活動をいくつか設け、そして新しい活動を加えていくようにするとよいでしょう。そうすることで、新しく触れる活動内容の打合せに重点を置くことができるので、労力や時間の節約になるでしょう。

⑤学年合同の打合せを行いましょ。

学年の先生方とAL Tの先生と合同で打合せを行うとうよいでしょう。こうすることで、AL Tの先生に話しやすくなったり、伝えられないことも他の先生に伝えてもらったりすることができます。学年で同じ歩調で、同じカリキュラムで授業を作っていけると、先生方の負担も軽減することができるでしょう。

⑥さまざまな資料の活用をしましょう。

インターネットはもちろん、書籍なども活用して、いろいろな資料を集めてみましょう。授業のプラン、アイデア、絵カード、教室での英語表現、打合せ時の英語表現などさまざまなものを集めることができます。AL Tの先生に見せることでも意思疎通ができるようになります。まずはこちらを参考にしてみてください。

千葉県総合教育センターホームページ → 教職員 → カリキュラムサポート室

→ 小学校ガイドブック

→ ダウンロード「中学校外国語科との円滑な接続を図る小学校外国語活動」

Q：『英語ノート』から『Hi, friends!』に改訂されましたが、
どのようなところに気をつけて利用すればよいでしょうか。

A：利用の仕方は今までと変わりません。

『Hi, friends!』の特徴を意識して利用しましょう。

『英語ノート』が洗練されたものと考え、『Hi, friends!』の意図された特徴をおさえながら利用してみましょう。

アドバイス

コンセプトを知ることが上手に利用する近道です。

①タイトルに願いがこめられています。

小学校の外国語活動を体験する2年間で、言葉で会話することの楽しさや大切さを感じてもらいたい。コミュニケーションの第一歩があいさつからという願いから『Hi, friends!』と付けられました。つまり、より楽しいコミュニケーション活動をねらいとしているのです。

②総ページ数や活動数が減りました。

総時間数が35時間のまま、総ページ数や単元の数が減ったことで、それぞれの活動に十分時間をかけて取り組むことなどができるようになりました。時間配分の弾力化が図られ、一単元の活動をより充実したものにできるようになりました。

③年間指導計画や学習指導案はサポートされています。

教師用指導書に掲載されていない年間指導計画や学習指導案は、文部科学省ホームページ、Hi, friends! 関連資料に掲載されています。ダウンロードして活用しましょう。

④デジタル教材の充実。

世界の子どもや生活の様子が収録された動画、実写版のスキット、ネイティブスピーカーの発音口頭モデルやカラオケバージョンのチャンツなどが映像を使ったものとなっており、充実が図られています。また、600枚もの絵カードをプリントアウトして使用することができます。このデジタル教材を効果的に利用することで、外国語活動の時間がより充実したものになるでしょう。

⑤各単元が4つの活動で構成されています。

全ての単元において、「Play」「Listen」「Chant」「Activity」の4つの活動が設定されています。それぞれの活動には、外国語への慣れ親しみや、言語や文化に関する気づきというねらいがあります。このねらいにポイントをあてて、活動を展開していけるとよいでしょう。

⑥中学校との連携が意識されています。

例えば、「Lesson 6」のアルファベット探し体験は、中学校でのアルファベットの発音や綴りの学習に接続しています。また、『Hi, friends!』を小学校で十分に活用しておくことが、中学校での英語学習の基礎となるのです。

『Hi, friends!』を教えるという気持ちではなく、
『Hi, friends!』を楽しむ気持ちで利用しましょう！